



# かどや通信

## 第7号

発行日：平成27年2月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

### 復活！ほのぼの昭和のお正月

#### 箏の音色と百人一首

賛を得るなど、穏やかなお正月のひと時となった。

平成二十七年もかどやの新年は昨年同様、百人一首のかるた取りと箏の弾きぞめで始まった。

十一日には、「百人一首に親しもう！」と題して、かどや新春かるた会が開かれた。前回は、年明け早々の四日に行われたため、早すぎたのか参加者はかどやの関係者や知人七名と少なかった。しかし、今回は『広報とば』で情報を得た方々も含め十一名が参加。初対面にもかかわらず、和気あいあいでの札取りに興じた。

参加者の中には、小学生が3人いたが、百人一首は学校の授業で暗唱したうえで、抜群の腕前を披露し大人たちの賞



#### 春を呼ぶ箏の調べ

二十五日には、今年初の屋下がりコンサートが行われた。

新年最初の出し物は、前年同様、かつては日本のお正月には欠かすことのできなかつた箏の弾きぞめで、初春らしい明るい音色が、かどやの座敷に広がった。

演奏は今年も、伊勢正派松朋会・小山社中の皆さんで、「春のうた」をはじめ、「さくら」や「早春賦」「花」など初春にふさわしい曲が奏でられた。今回は、通常の十三弦箏だけでなく、宮城道夫氏が開発した十七弦箏も加わり、華やかな宴となった。



#### 見に来て！かどやのお雛様

今年も二月四日からお雛様の展示が始まった。廣野家に伝わる明治期に作られたと思われる御殿雛をはじめ、江戸後期と昭和初期の段飾りに加えて、平成二十六年年度の鳥羽市生涯学習講座「初歩の陶芸」の受講生十六名の作品と、市内在住の小久保美知子さんのちぎり絵雛が展示されている。

また、座敷には、和紙人形作家・阿部夫美子さんのきらびやかな創作雛十五組が飾られている。段飾りは、昨年も飾られたが、組立は約二日間の悪戦苦闘の末に、ようやく再現にこぎつけたものだ。華やかな雛人形も縁の下の力持ちたちの汗に支えられている。

見どころ満載のかどやの雛飾りは三月九まで。お見逃しなく！



御殿雛の組み立てに悪戦苦闘

# かどや塾ハイライト① 輝く女性のために!

かどやでは、「かどや塾」と銘打って様々なセミナーを行っている。今回は、平成二十六年の下半期に実施されたものから、特に女性に焦点を当てたセミナーを紹介しよう。

## フロに学ぶメイクアップ術

八月六日に行われた第八回かどや塾は「美人度アップ〜フロに学ぶお出かけ前のメイクアップ術」で、三十代から四十代の女性二十人が参加した。講師の上田秀子さんは鳥羽市出身で、現在はなんと英国ロイヤルバレエ団専属のウィッグ&メーキャップテクニシャンとして活躍している。休暇を利用して帰省していたところ、秀子さんの母・栄枝



さんがかどやサポーターとして活動していることから同セミナーが実現した。

当日はまず、参加者にモデ

ルになってもらい、お化粧の基礎的テクニックを披露。その後、眉のひき方やほお紅の入れ方、アイラインの書き方等、参加者からの質問に答えるため、質問者をモデルにちよつとしたコツを実践したところ、あつと言う間に驚くほどチャームイングさが増し、参加者のため息を誘った。人に教えるのは初めてという秀子さんだが、モデルさんにお化粧をほどこしながら、フロの技術者としてトップダンサーに接する際の心構えや緊張を要する日常の仕事などについて、にこやかにゆったりとした話しぶりも清々しく、参加者を魅了した。

## 日々の暮らしに魔法のアクセント

第十四回のかどや塾は、伊勢銀座



新道商店街の人気インテリア雑貨店・遊華人倶楽部の加藤ひとみさんが講師で、第一部はインテリア家具の上手な使い方

を、第二部ではオシャレな着こなし術や手持ちのストールの活用方法等を紹介した。会場となったかどやの座敷も、加藤さん流の飾り付けで、まるで魔法にかけられたかのように大変身した。

第二部のストールのおしゃれな使い方では、八種類の巻き方を紹介したが、四十名を超える参加者は最後まで熱心に見入っていた。

## ベトナムに熱視線

### さやか専務の体当たり体験記

近年、ビジネスのパートナーとして中国ではなくベトナムとの取引を進めている企業がふえている。鳥羽市でタオル販売を行っている有限会社イツミもベトナムの企業とのビジネスを始めており、専務の小崎さや香さんは昨年から数回にわたってベトナムに出張している。

そこで、第十回のかどや塾では、さや香専務にベトナム



△の最新情報をお話しいただいた。講演では、ビジネス情報に加えて対日感情やベトナム人気質、街の様子や気候、グルメ情報などベトナムの魅力を現地撮影した写真を使って臨場感豊かに紹介してくれた。

### 美しさは永遠の願い!?

毎回、イベントの集客に苦労しているのかどやサポーターの栄枝ちゃんから娘・秀子さんのメイクアップ教室の提案を頂いた時、大いに迷った。なぜなら、平日の午後に参加できる年齢層の人たちに興味を持ってもらえるか不安だったからだ。しかし、同じくサポーターの佳代さんから「女性はいくつになってもきれいでいたいんだから、絶対大丈夫!やりましようよ」と力強い後押しを得た。ふたを開ければ、満員御礼の大盛況で、秀子さんの一挙手一投足に熱い視線が注がれた。

また、遊華人倶楽部・加藤さんのおしゃれ講座も超満員で、参加者の真剣なまなざしが印象的だった。「美しくありたい」は、女性にとって永遠の願いなのだと、同性ながら改めて痛感。美意識に乏しい我が身なりを大いに反省した次第。

## 趣味が輝く多彩な展示

昨年後半も、様々な展示がかどやに彩りを添えてくれた。

### 〔九月〕

#### 絵手紙とちぎり絵展

「絵手紙とちぎり絵展」が八日から二十九日まで開かれ、鳥羽市在住の中村悦子さんと野村千賀子さんの絵手紙、和紙を使ったちぎり絵、新聞紙のカラー写真等を利用した絵手紙風ちぎり絵が展示された。

出展者は敬老の日がある九月に因んで全員六十歳以上だ。和紙を使った作品は、「三丁目3人会」のメンバーが中之郷会館で行っていた教室で作ったためだ。一方、新聞紙を使ったちぎり絵は、市民講座に通っていた仲間7人が講座終了後も定期的に活動している「よってかん会」の皆さんの作品である。

#### 「楽しいなあ！」体験教室大興奮

十五日には「よってかん会」の皆さんの指導のもと体験教室も開かれた。同会のメンバーが日頃から作品用に集めていた新聞紙を使い、展



示作品を参考に、はがきにトマトや柿、なす、トンボ等を描いた。

体験教室の参加者も六十歳以上が多かったが、おじいちゃん

と一緒に参加した小学一年生もあり、物おじすることなく「トマトに使う赤い紙ない」等と声をかけ、はつらつとちぎり絵に挑戦していた。他の参加者も童心に戻ったように元気に作品作りに没頭し、かどやの座敷が明るい話し声で満ち溢れた。

### 〔十月〕

#### 伊勢神宮くんと自然く

#### 今よみがえる奥山理の世界

十月は、伊勢神宮にとって最も重要な神嘗祭が執り行われる月である。そこで、長年神宮の写真を撮り続けた奥山理さんの写真展を実施した。

奥山さんは、残念ながら一昨年亡くなられたが、約四十年間ほぼ毎日神宮に通い、お社をはじめ神宮に奉仕される方々や参拝に訪れる人々、神宮の森に息づく動植物などを撮

り続けた。日報連・報道写真ベストテンコンクールで二度もグランプリを受賞するなど、そのセンスはお墨付きだ。光の使い方が素晴らしい、また長年通い続けた人ならではのショットも多く、見学者を魅了した。

### 〔十一月〕

#### 県外からの作品も

#### 四條畷木彫同好会・作品展

十一月は、平成元年から大阪府四條畷市の公民館で活動している木彫同好会の作品二十六点が並んだ。

木彫作りは、題材を決めて下絵を完成させてから、彫刻刀で部分毎に彫り、塗装して完成となる。材料には、桂や朴、玉椿、栓等を使い、彫刻刀はなんと200〜300種類を使い分けるそう、集中力と根気が要求される大変な作業だ。

同会の作品が県外で展示されるのは今回が初めてだそうだが、これはメンバーの節子さんがご主人と鳥羽に移住し、かどやの活動にも積極的に参加しているご縁で実現したものだ。



作品運搬のため一人で大阪を往復してくれただけでなく、大阪のメンバーを鳥羽に招いてくれるなど、鳥羽のPRにも寄与してくれた。

### 〔十一月〜十二月〕

#### のれんに絵手紙、しなやか作品展

十九日から十二月八日まで、井爪貞子さん率いる絵手紙集団「百花こころ絵」のメンバー三十六名がのれん製作に挑んだ作品展が開かれた。のれんの縫製や草木染等は専門家の協力を得たもので、完成まで三ヶ月という意欲作である。絵手紙の楽しい図柄が柔らかなのれんにマッチして、見る人を優しい気分させ魅力的な作品群が、かどやに彩りを添えた。

のれん展は、前日まで伊勢市横輪町の木間々な美術館で開催されていたもので、

横輪に足を運んでいただく感動したかどやの清水館長が、なんと最終日にのれんをかついで戻り、翌日からかどやで展示となった館長入魂の作品展でもあった。



## 夏休み子どもスペシャル

### 寺子屋で宿題サクサク!

作年の夏休みも「冷房のきいたかどやの座敷で宿題を」と、かどや寺子屋が開校し、男子四名、女子十一名の小学生が利用した。

初めは、遊び気分で宿題に集中できない子もいたが、日が経つにつれ落ち着いて机に向き合うようになり、サクサクと宿題をこなしていた。  
**白玉だんごと絵手紙作ろう!**

夏休みの思い出になるような企画をと「白玉だんご絵手紙を作ろう!」と募集したところ、小学生八名と鳥羽市内のホテルに研修にきていた二人の若い女性が参加した。当日はまず、絵手紙作りに挑戦し



たが、白玉だんご作りを楽しみにしていた参加者たちは少々落胆さみ。しかし、中村悦子さんとかどやサポーターたちが

筆の持ち方をはじめ、一人ひとりに丁寧に指導を始めると、楽しそうに自分なりの工夫を加えて、絵手紙を完成させた。

白玉だんご作りでは、「ポニョポニョしとっておもしろい」とだんご作りに熱中した。

白玉だんごが完成すると、うれしい試食タイム。きなこ黒蜜と、あずきを準備したところ、全員きなこ黒蜜派で、あずき派のサポーターを落胆させた。ホテルのお姉さんともすっかりうちとけて、白玉だんごをほおばりながら、おしゃべりが弾んだ。いい思い出になったかな?

### 竹細工にも挑戦!

二十七日には、野村史隆さんの指導のもと、小学校五年生から年長までの九名が竹細工作りに挑戦した。

初めは、史隆さんが準備した力二の部位をおそろおそろ組み立てていたが、自作の力二が完成すると、少し誇らしげに作品を持ち帰った。



### 貸部屋の案内

かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

### 故人とも出会える交流の場

前ページで紹介した奥山理さんの写真展には、生前親交のあった約九十名が来館された。

奥山さんを知る人達は口々に「いつも控えめで、優しい人だった」と、そのお人柄をたたえた。二年前にかどやで写真展をした岡村廣治さんもその一人だ。「写真始めた頃、奥山さんの励ましで、自信がついたから今がある」と言い、写真の飾り付けを一手にひきつけてくれた。

某テレビ局のディレクターさんは「取材でよい場所を譲っていただくなど大変お世話になったので、せめてもの恩返しに」と、かどやでの写真展を丁寧に取材しニュースで紹介してくれた。

奥山さんの遺影の前で、奥山さんに語りかけるように長くたたくむ人もいた。奥山さんの優しさに触れた人達が、奥山さんを偲んで足を運んでくれたのだ。

奥山さんを慕っていた方々に写真展で再会していただけたようで、かどやが交流の場として故人ともつながることができたのではと、嬉しかった。

残念ながら、直接お会いすることは出来なかったが、写真展を通じて人と人にも触れ、奥山さんに出会えたような気がした。